

第6回 鎌倉幕府の崩壊と建武の新政

§1 徳政令の発布

鎌倉幕府は、二度の蒙古襲来を防いだが、御家人の活躍に対して十分な恩賞を与えることができなかった。また、幕府の政治がそれまで以上に独裁的なものになったため、御家人たちの要求が十分に聞き入れられなくなっていた。

武士の領地は兄弟姉妹で平等に分割相続されていた。代を経るにしたがって、土地の細分化が進み、御家人たちの生活は苦しくなっていた。そこで、1297年に幕府は質入れや売却した御家人の領地を無償で持ち主に返させる徳政令を出した。しかし、その効果は一時的なものであり、御家人の不満は高まった。

§2 鎌倉幕府の滅亡

そのような幕府に対する不満が高まるなかで、後醍醐天皇は、幕府を倒し天皇中心の政治を復活させようとした。討幕の計画は何度も失敗したが、最後に、足利高氏、新田義貞らの有力な武士が後醍醐天皇に味方したため、1333年に鎌倉幕府は滅亡した。

§3 建武の新政

後醍醐天皇は天皇中心の政治の復活を目指し、新しい政治体制を整えようとした。その後醍醐天皇による新たな政治を建武の新政とよぶ。天皇による親政は皇族・貴族を重視した政治となったため、武士による政治の継続を望んでいた武士の不満が高まった。そのような武士の不満を背景として、足利尊氏（高氏から改名）は1335年に鎌倉で武士による政治の再興をめざして新政に反旗をひるがえした。こうして、後醍醐天皇による建武の新政は短期間で失敗に終わった。

第6回 鎌倉幕府の崩壊と建武の新政

§1 徳政令の発布

鎌倉幕府は、二度の蒙古襲来を防いだが、御家人の活躍に対して十分な恩賞を与えることができなかった。また、幕府の政治がそれまで以上に独裁的なものになったため、御家人たちの要求が十分に聞き入れられなくなっていた。

また、武士の領地は兄弟姉妹で平等に分割相続されていた。代を経るにしたがって、土地の細分化が進み、御家人たちの生活は苦しくなっていた。そこで、1297年に幕府は質入れや売却した御家人の領地を無償で持ち主に返させる徳政令を出した。しかし、その効果は一時的なものであり、御家人の不満は高まった。

§2 鎌倉幕府の滅亡

そのような幕府に対する不満が高まるなかで、後醍醐天皇は、幕府を倒し天皇中心の政治を復活させようとした。討幕の計画は何度も失敗したが、最後に、足利高氏、新田義貞らの有力な武士が後醍醐天皇に味方したため、1333年に鎌倉幕府は滅亡した。

§3 建武の新政

後醍醐天皇は天皇中心の政治の復活を目指して新しい政治体制を整えようとした。その後醍醐天皇による新たな政治を建武の新政とよぶ。天皇による親政は皇族・貴族を重視した政治となったため、武士による政治の継続を望んでいた武士の不満が高まった。そのような武士の不満を背景として、足利尊氏（高氏から改名）は1335年に鎌倉で武士による政治の再興をめざして新政に反旗をひるがえした。こうして、後醍醐天皇による建武の新政は短期間で失敗に終わった。

Part 6: The Fall of the Kamakura Shogunate and the New Kenmu Government

§1 Promulgation of the Tokugawa Decree

The Kamakura shogunate prevented the Mongol invasion on two occasions, but failed to provide sufficient rewards for the successes of the Gokenin. In addition, the shogunate's politics had become more autocratic than before, and the demands of the Gokenin were no longer fully heeded.

In addition, the samurai's fiefs were divided equally among brothers and sisters, and as generations passed, the lands were increasingly subdivided, making life difficult for the Gokenin. Therefore, in 1297, the shogunate issued a decree of morality(徳政令”Tokusei rei”) to return the lands of the Gokenin who had pawned or sold their fiefs to the owners without compensation. However, the effect was only temporary, and the dissatisfaction of the Gokenin grew.

§2 Downfall of the Kamakura Shogunate

Amid such growing dissatisfaction with the shogunate, Emperor Godaigo(後醍醐天皇 “Godaigo Tenno”) attempted to overthrow the shogunate and restore the emperor-centered government. His plans to overthrow the shogunate failed several times, but in the end, Ashikaga Takauji, Nitta Yoshisada, and other powerful warriors sided with Emperor Godaigo, and the Kamakura shogunate fell in 1333.

§3 The New Kenmu Government

Emperor Godaigo tried to set up a new political system to revive the emperor-centered government(親政 “Shinsei”). The new political system under Emperor Godaigo is called the "New Kenmu Government(建武の新政 “Kenmu no Shinsei”)”. The emperor's new government focused on the imperial family and aristocrats, which led to dissatisfaction among the samurai who wanted to continue the samurai rule. Against the backdrop of such dissatisfaction among the samurai, Ashikaga Takauji (renamed from Takauji) rebelled against the new government in Kamakura in 1335 with the aim of reviving the samurai government. Thus, Emperor Go-Daigo's new Kenmu government was short-lived and ended in failure.

第6回 镰仓幕府统治的崩坏与建武新政

§1 颁布《德政令》

虽然镰仓幕府两次抵御了来自元军的入侵，但却未能对在抗击元军中英勇奋战的御家人给予足够的赏赐。同时，由于幕府统治相比之前愈发专制独裁，就更不会充分听取御家人的要求了。

此外，武士的领地被兄弟姐妹平分继承，世代更迭，土地被越来越多地细分，使御家人的生活变得愈发艰难。为此，幕府于1297年颁布《德政令》，责令将抵押或已出售的御家人的土地无偿归还其所有者。然而，这只能取得暂时的效果，御家人的不满仍在日益高涨。

§2 镰仓幕府的灭亡

在这种日益高涨的对幕府统治的不满情绪下，后醍醐天皇试图推翻幕府，恢复以天皇为中心的统治。虽然讨伐幕府的计划几经失败，但最终，得益于足利高氏和新田义贞等有影响力的武士对后醍醐天皇的拥护，镰仓幕府的统治于1333年覆灭。

§3 建武新政

后醍醐天皇旨在恢复以天皇为中心的统治，进而建立一个新的政治体制。这个根据后醍醐天皇所提出的新政治举措被称为建武新政。由于天皇亲政只重用皇室和贵族，这引起了希望继续以武士统治的武士阶层的不满。在这样的背景下，足利尊氏（由高氏改名）于1335年在镰仓举起了反叛新政的大旗，意图复兴武士统治。如此，后醍醐天皇的建武新政在短时间内便以失败告终。